平成30年度
薬局ビジョン実現に向けた
薬剤師のかかりつけ機能強化事業
（平成30年度薬剤師生涯教育推進事業）
報告書

平成31年3月

公益社団法人
日本薬剤師会
Japan Pharmaceutical Association

平成 30 年度　薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
（平成 30 年度薬剤師生涯教育推進事業）
報告書　目次

Ⅰ　事業の概要 …… 1
　1．事業の位置づけ …… 1
　2．事業の目的 …… 1
　3．事業の全体構想・概要 …… 1
　4．実施体制 …… 4
　　（1）事業担当者 …… 4
　　（2）会議体 …… 4
　　（3）会議の開催状況 …… 7
　5．事業実施期間 …… 7

Ⅱ　研修シラバスの作成 …… 9
　1．研修シラバス作成委員会における検討 …… 9
　2．「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」 …… 10

Ⅲ　指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）の開催 …… 11
　1．指導者研修会の開催方針・枠組みの検討（指導者研修委員会）…… 11
　2．研修会内容の検討（ワーキンググループ）…… 12
　3．都道府県薬剤師会等での取り組みにつなげる方策の検討（指導者研修委員会）…… 13
　4．研修会の開催 …… 15
　　（1）研修会概要 …… 15
　　（2）研修会プログラム及び講師、ファシリテーター …… 15
　　（3）研修会の開催 …… 17
　　（4）情報交換会の開催 …… 20
　　（5）受講者への事後課題 …… 20

Ⅳ　事業の評価 …… 22
　1．指導者研修会受講者アンケート …… 22
　2．事業評価委員会による評価 …… 32
　　（1）事業評価委員会の開催 …… 32
　　（2）評価 …… 32

Ⅴ　今後の事業展開について（都道府県薬剤師会等における研修機会の充実）…… 38

＜巻末資料＞
資料１　平成 30 年度次世代薬剤師指導者研修会　講義・ワークショップ資料 …… 39
資料２　平成 30 年度次世代薬剤師指導者研修会　研修会運営リソース …… 257
資料３－１　昨年度事業成果活用状況調査結果 …… 263
資料３－２　昨年度事業成果活用事例報告（群馬、広島）…… 270

＜別冊＞
薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス

Ⅰ　事業の概要

１．事業の位置づけ

日本薬剤師会は、厚生労働省（医薬・生活衛生局総務課）の「薬剤師生涯教育推進事業」の実施法人として、厚生労働省の実施要綱【資料１】に則り、「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を計画・実施した。

２．事業の目的

本事業は、「患者のための薬局ビジョン」（厚生労働省、平成 27 年 10 月 23 日）を踏まえ、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目的として実施した。また同時に、薬剤師の職能が真に、患者に提供される医療の向上と、患者の満足度を伴う納得した医療の受療につながるものとなるよう、「対物業務から対人業務へ」を念頭において実施した。

なお、本事業が「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、薬剤師のかかりつけ機能の強化を念頭においていることから、本事業で検討する研修内容は主に薬局薬剤師向けとした。なお薬剤師が強化すべき機能は臨床の場の別を問わないこと、また地域における薬薬連携推進の観点からも、対象者は薬局薬剤師・病院薬剤師の別を問わないとした。

３．事業の全体構想・概要

「患者のための薬局ビジョン」を実現し地域医療の質の向上を図るには、薬剤師が対人業務に関してその職能が持つ専門性等を発揮し、かかりつけ薬剤師としての役割を果たすために必要な研修機会が十分に提供されることが重要である。そのためには、各団体・学会が共通の指標とできる研修項目等の提示や、全国でその研修を実施できる体制整備が必要であると考えた。

そこで、本事業の実施に当たっては、本会に設置した事業実施委員会（後述）において、「薬剤師生涯教育推進事業実施要綱」に示された目的に沿って、薬剤師の機能強化・専門性向上に資するための研修内容及び研修を全国的に展開するための方策について検討し、以下の①～③を企画し実施した。

①薬剤師のかかりつけ機能の強化のための研修シラバスの作成

②将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成のための指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）の実施

③本事業成果を都道府県薬剤師会に活用いただき、自県の研修計画に反映し、薬剤師への研修機会を充実

①　薬剤師のかかりつけ機能の強化のための研修シラバスの作成

薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を図るため、薬剤師会をはじめとする関係団体・学会等の研修実施の共通の指標となる「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」を作成した。（本報告書第Ⅱ章及び報告

書別冊「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」参照）

【参考】「患者のための薬局ビジョン」より（抜粋）
第２　かかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿
１　かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能
（６）かかりつけ薬剤師としての役割の発揮に向けて
薬剤師が、こうした対人業務に関する専門性やコミュニケーション能力を向上させ、かかりつけ薬剤師としての役割を果たせるよう、医薬関係団体や学会等が連携をしながら、必要な研修の機会を積極的に提供することが求められる。また、医療機関において、薬局薬剤師が研修を受ける機会が提供されることも重要である。

②　指導者研修会の実施

地域における研修機会の充実に向け、将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成のための指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会：平成 31 年２月 10 ～ 11 日）を開催した。

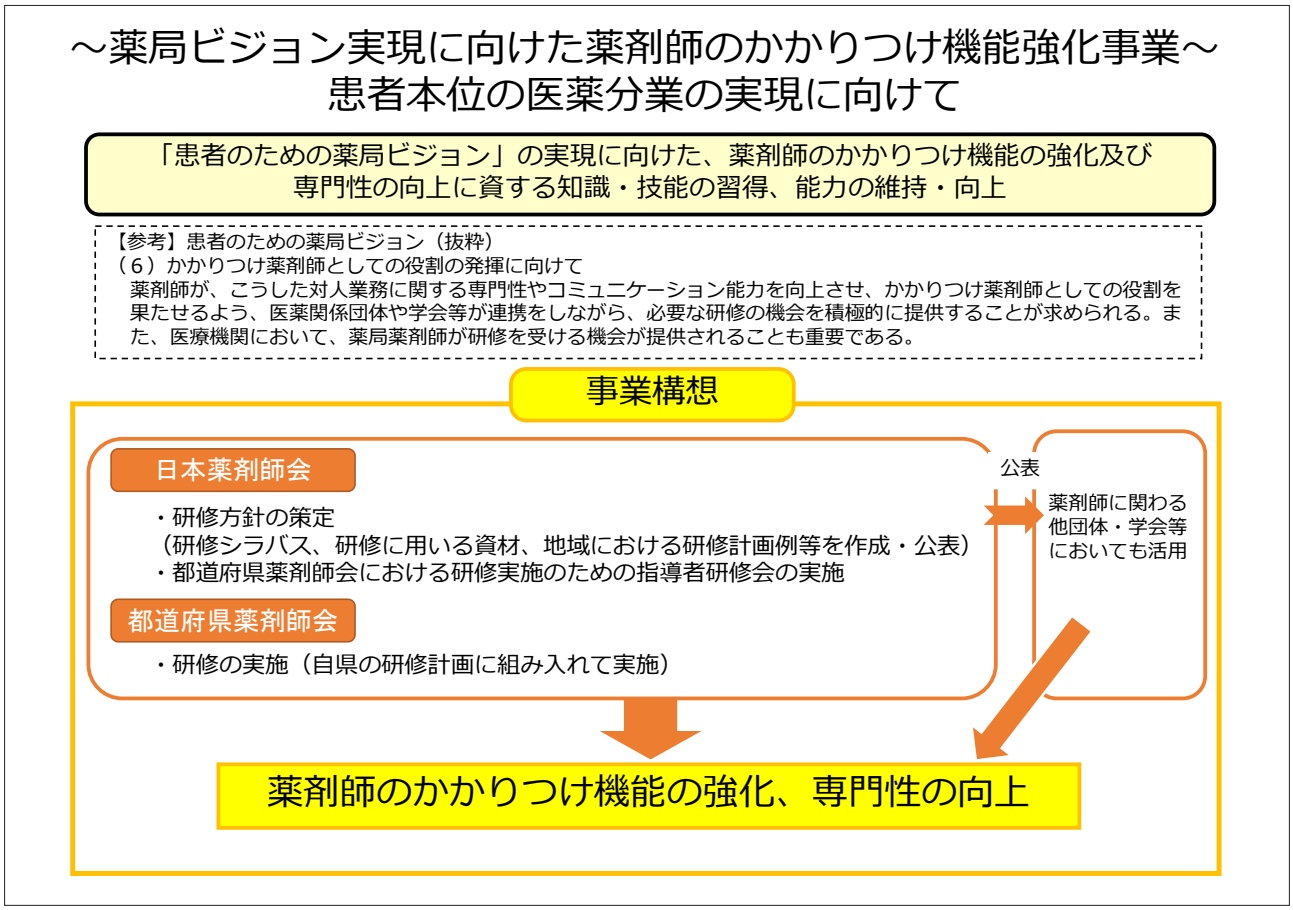
指導者研修会は、地域における研修の企画実行を担う指導的立場の者としての資質向上や研修方略の習得等を図るとともに、①で作成した研修シラバスを踏まえて、地域における研修において到達目標とする知識・技能レベルの共有等を目的として開催した。（本報告書第Ⅲ章参照）

③　薬剤師に対する研修機会の充実（都道府県薬剤師会等における研修実施）

本事業による成果を都道府県薬剤師会等に活用いただき、各団体の研修計画に組み入れる形で薬剤師への研修機会が充実されるよう、今後、都道府県薬剤師会と連携した取り組みを進めていく。（本報告書第Ⅴ章参照）

地域における研修の実施に向けた取り組み方策について検討する際の基礎資料とするため、都道府県薬剤師会に対し、本年度事業の前段となる昨年度事業（平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業）の成果の活用状況（都道府県薬剤師会における研修の計画・実施状況）について調査を行った。（巻末資料３－１、３－２参照）

これら事業の全体構想及び都道府県薬剤師会における研修展開イメージは図１のとおり。



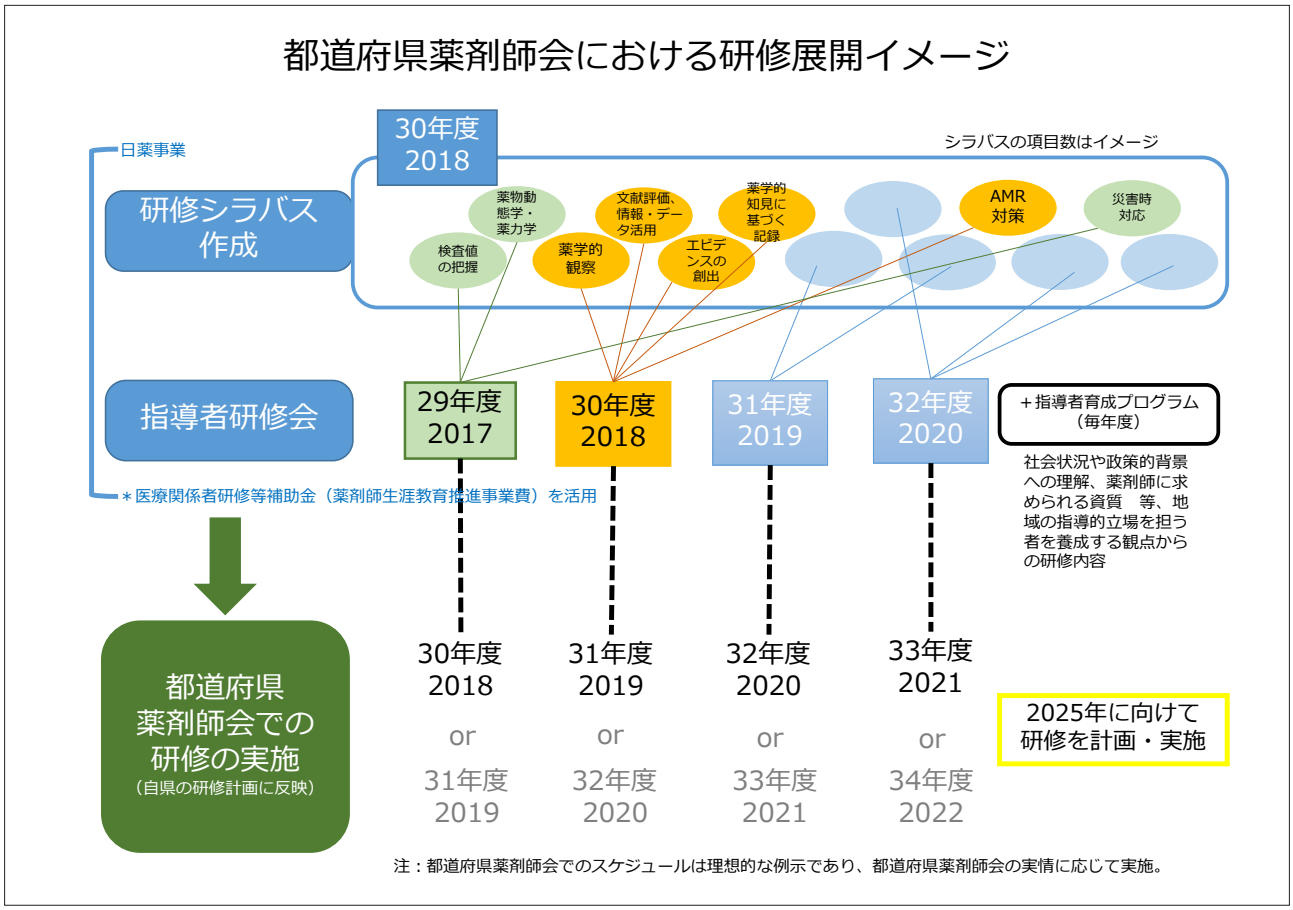


図１　事業構想及び都道府県薬剤師会における研修展開イメージ

４．実施体制

（１）事業担当者

担当副会長　：◎田尻　泰典（副会長　医薬分業担当）
　　乾　　英夫（副会長　生涯学習担当）
担当常務理事：◎宮﨑長一郎（常務理事　生涯学習担当）
　　吉田　力久（常務理事　医薬分業／地域医療・保健担当）
　　○豊見　　敦（常務理事　医薬分業担当）
　　島田　光明（常務理事　地域医療・保健／ DI・医療安全担当）
　　亀井美和子（常務理事　生涯学習担当）

（２）会議体

本事業の実施にあたっては、各担当常務理事による「事業実施委員会」を組織した。事業実施委員会の下に「指導者研修委員会」及び「研修シラバス作成委員会」を組織して各担当常務理事を配置し、シラバス等の検討、指導者研修会の企画を行った。会議体の組織に際しては、関係団体や学術・教育関係者等の外部有識者を招聘し、研修内容等について関係者の連携を図りながら事業を進めた。また、事業全体の評価を行うため、「事業評価委員会」を設置した。

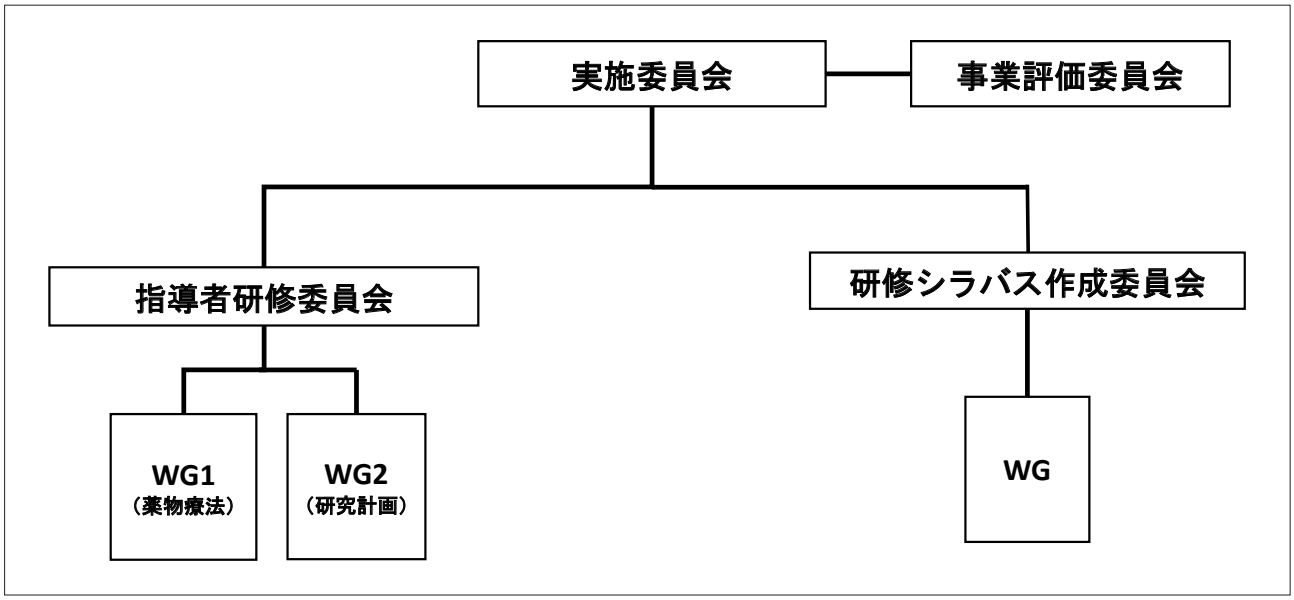


図２　委員会構成図

◆事業実施委員会

構成員：

◎田尻　泰典（副会長　医薬分業担当）
乾　　英夫（副会長　生涯学習担当）
◎宮﨑長一郎（常務理事　生涯学習担当）
吉田　力久（常務理事　医薬分業／地域医療・保健担当）
○豊見　　敦（常務理事　医薬分業担当）
島田　光明（常務理事　地域医療・保健／ DI・医療安全担当）

亀井美和子（常務理事　生涯学習担当）

①指導者研修委員会

指導者研修委員会には、関係団体・学会のほか研修内容に応じて有識者に参画を求め、指導者研修委員会が企画したプログラム及び２つのワークショップについて具体的な検討を行うため、２つのワーキンググループを設置した。

【指導者研修委員会】

構成員（敬称略）：

◎豊見　　敦（日本薬剤師会　常務理事）
○吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
島田　光明（日本薬剤師会　常務理事）
宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
崔　　吉道（日本薬剤師会　理事）
鹿村　恵明（東京理科大学薬学部　教授）
桒原　　健（日本病院薬剤師会　専務理事）
（オブザーバー：厚生労働省　医薬・生活衛生局総務課）

【ワーキンググループ１】

研修内容：

・薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質
・直近の政策課題
・かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ

構成員（敬称略）：

◎豊見　　敦（日本薬剤師会　常務理事）
○吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
桒原　　健（日本病院薬剤師会　専務理事）
早川　　達（北海道科学大学薬学部　教授）
山本雄一郎（アップル薬局）

【ワーキンググループ２】

研修内容：かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法

構成員（敬称略）：

◎宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
○亀井美和子（日本薬剤師会　常務理事）
○崔　　吉道（日本薬剤師会　理事）
山本康次郎（群馬大学大学院医学系研究科　教授）

飯嶋　久志（千葉県薬剤師会）
竹内　尚子（トライアドジャパン株式会社）
出石　啓治（日本医療薬学会（いずし薬局））
※山本、飯嶋、竹内各委員は本会臨床・疫学研究推進委員会委員。

②研修シラバス作成委員会

研修シラバス作成委員会は、有識者及び関係団体・学会から委員の参画を求めて組織し、またシラバス案の作成のため、本会関係委員会の委員から構成するワーキンググループを設置した。

構成員（敬称略）：
大谷　壽一（日本病院薬剤師会（慶應義塾大学薬学部　教授））
早川　　達（北海道科学大学薬学部　教授）
山田　清文（日本医療薬学会（名古屋大学大学院医学系研究科　教授））
◎宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
○亀井美和子（日本薬剤師会　常務理事）
吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
鵜飼　典男（日本薬剤師会　理事）
髙松　　登（日本薬剤師会　理事）

【ワーキンググループ】

構成員（敬称略）：
◎宮﨑長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
○亀井美和子（日本薬剤師会　常務理事）
吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）
鵜飼　典男（日本薬剤師会　理事）
髙松　　登（日本薬剤師会　理事）
山田　武志（日本薬剤師会　医薬分業対策委員会）
村杉　紀明（日本薬剤師会　医薬分業対策委員会）
高橋　良徳（日本薬剤師会　DI・医療安全・DEM 委員会）
佐藤　嗣道（日本薬剤師会　DI・医療安全・DEM 委員会）
山本　晃之（日本薬剤師会　生涯学習委員会）
伊東　弘樹（日本薬剤師会　生涯学習委員会）

③事業評価委員会

①②の構成員以外の外部有識者に参画を求め組織した。

構成員（敬称略）：
加藤　裕久（昭和大学薬学部　教授、事業評価委員会委員長）
吉山　友二（北里大学薬学部　教授）

（3）会議の開催状況

会議の開催状況は以下のとおり。会議を開催するほか必要に応じ電子メールによる協議を行った。

◆事業実施委員会

平成 30 年 9 月 11 日
平成 31 年 1 月 8 日
平成 31 年 3 月 19 日

①指導者研修委員会

【指導者研修委員会】

平成 30 年 12 月 6 日
平成 31 年 1 月 30 日

【ワーキンググループ 1 】

平成 30 年 12 月 10 日
平成 31 年 1 月 23 日

【ワーキンググループ 2 】

平成 30 年 12 月 20 日
平成 31 年 1 月 28 日

②研修シラバス作成委員会

平成 30 年 11 月 15 日　ワーキンググループ
平成 30 年 12 月 11 日　ワーキンググループ
平成 30 年 12 月 14 日　委員会
平成 31 年 2 月 26 日　委員会・ワーキンググループ合同

③事業評価委員会

平成 31 年 3 月 12 日

5．事業実施期間

平成 30 年 9 月 7 日（採択通知日）～平成 31 年 3 月 29 日

（薬剤師に対する研修機会の充実（都道府県薬剤師会等における研修実施）は、本事業成果を各団体の研修計画に組み入れる形で実施することとしており、本事業実施期間とは関連しない）

資料１　厚生労働省 薬剤師生涯教育推進事業実施要綱

薬剤師生涯教育推進事業実施要綱

（平成22年4月22日付薬食発0422第12号医薬食品局長通知
最終改正：平成30年6月13日薬生発0613第1号）

１．目的

医療技術の高度化・専門分化が進展する中、より良い医療を患者に提供していくためには、薬剤師の機能強化・専門性向上に資するために必要な知識及び技能を習得させる等の生涯教育が重要である。

本事業ではそれらにかかる研修プログラムを作成及び公表することで、地域における薬剤師の生涯研修につなげ、薬剤師の機能強化・専門性向上を図ることを目的とする。

２．事業内容

薬剤師の機能強化・専門性向上に資するために必要な知識及び技能を習得させる研修プログラムを作成し、研修講師の育成を目的とした本プログラムに基づいた研修を実施し、本プログラムの実用性を確認した上で、地域における実務研修の実施のための本プログラムを公表する。

なお、研修内容は、「患者のための薬局ビジョン」を踏まえ、かかりつけ機能を強化するための分野又は高度薬学管理機能に資する薬剤師の機能強化・専門性向上を踏まえた内容とする。

（例：入退院時の医療機関及び薬局との薬薬連携、在宅を含めた継続的服薬管理、
　　フレイル、終末期等における薬学管理　等）

３．実施主体

本事業の実施主体は、別に定める薬剤師生涯教育推進事業実施法人公募要綱により、採択された法人とする。

４．実施方法

事業の実施に当たっては、薬剤師の機能強化・専門性向上にかかる研修プログラムを作成するとともに、研修講師の育成を目的とした本プログラムに基づいた研修を実施し、本プログラムの実用性を確認した上で、地域における実務研修の実施のための本プログラムを公表するものとする。

５．経費負担等

国は、予算の範囲内で、薬剤師生涯教育推進事業に係る経費について別に定める基準（医療関係者研修費等補助金及び臨床研修費等補助金交付要綱）により補助するものとする。

６．実施時期

この要綱は、平成30年6月13日より適用する。

Ⅱ　研修シラバスの作成

１．研修シラバス作成委員会における検討

研修シラバスの作成にあたっては、まずはじめに、「患者のための薬局ビジョン」に描かれたかかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿を、【構造・体制（ストラクチャー）】、【行動実績（プロセス）】、【成果（アウトカム）】の３つの要素から検討した（図３）。

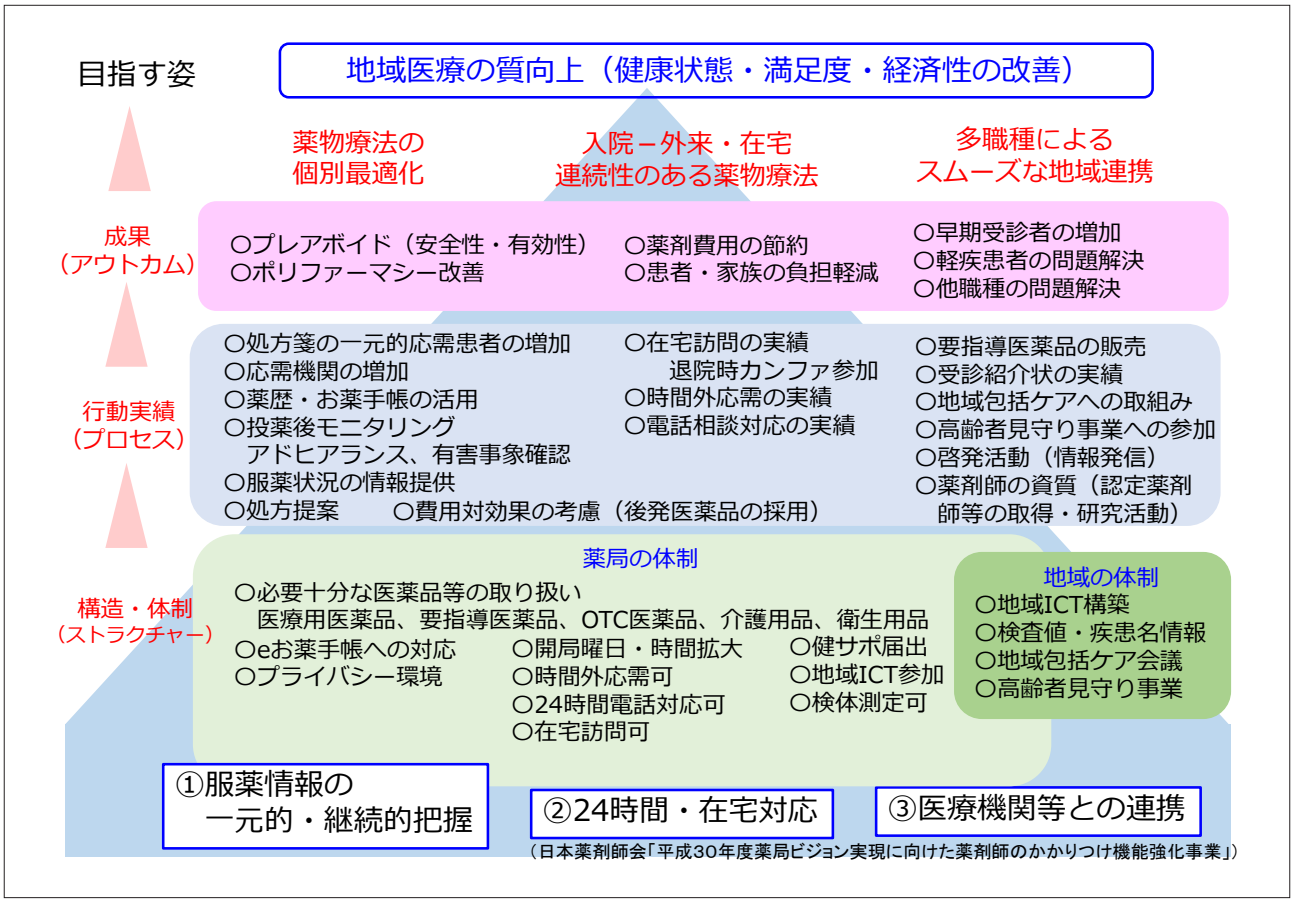


図３「患者のための薬局ビジョン」実現イメージ図

そして、【成果（アウトカム）】に結びつくための【行動実績（プロセス）】の質を高める観点から、かかりつけ薬剤師・薬局の機能と、それを発揮するために必要な資質を強化するための研修のあり方について検討を進め、シラバスの項目を決定した。

本研修シラバスは「Ⅰ．倫理・社会資源の活用」、「Ⅱ．医療薬学的知識と技能」、「Ⅲ．疾病特性に基づく薬学的管理・指導の知識と技能」の３章から成り、Ⅰ章は５項目、Ⅱ章は 16 項目、Ⅲ章は 12 項目の計 33 項目で構成している（図４）。

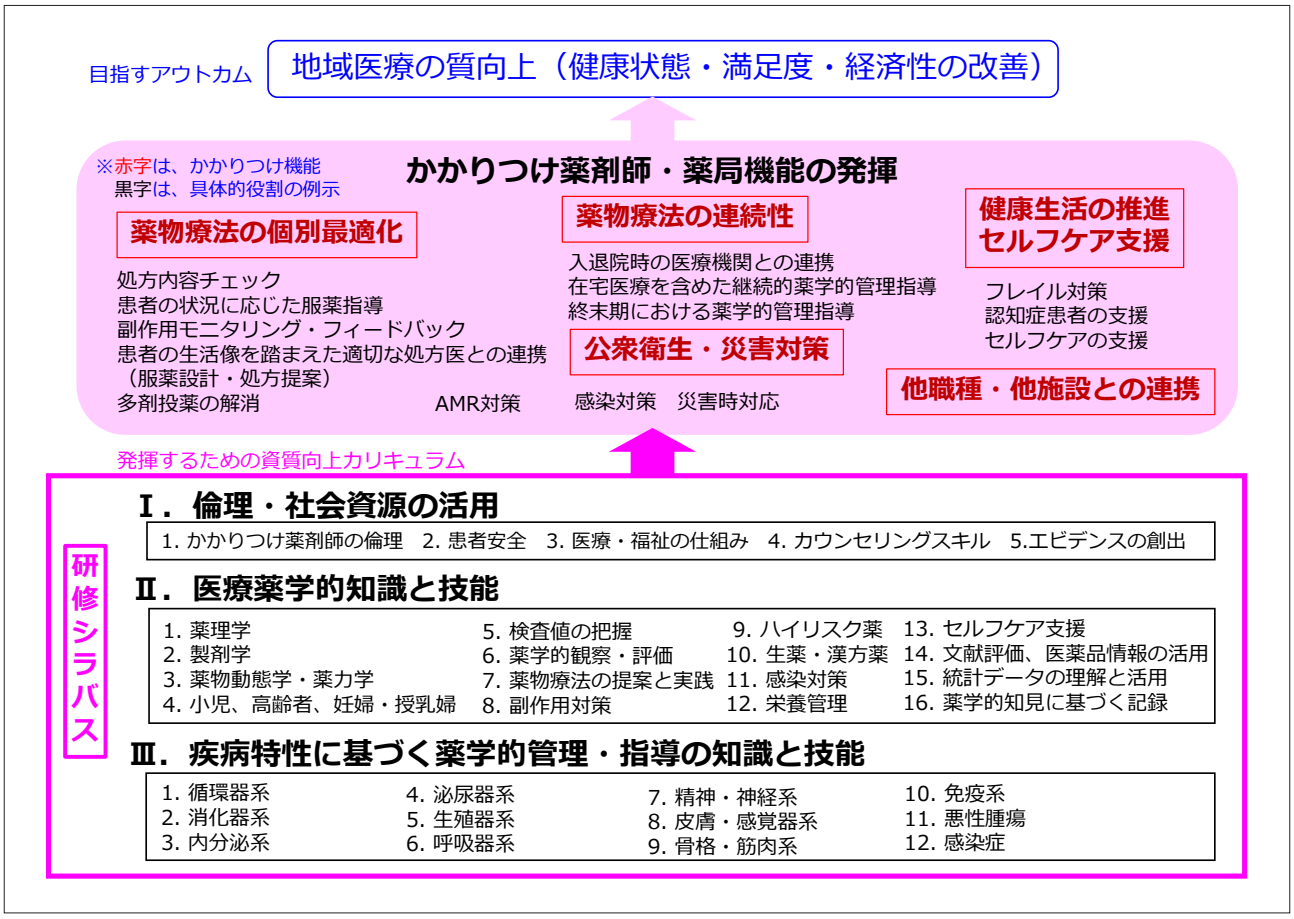


図４　薬剤師のかかりつけ機能強化研修の概要

これらの項目に沿って、本会医薬分業対策委員会、DI・医療安全・DEM 委員会、生涯学習委員会の委員から構成するワーキンググループにてシラバス案を作成した。ワーキンググループ案をもとに、関係団体・学会から委員の参画を求めて組織した研修シラバス作成委員会において指摘や助言を受けつつ検討を重ねた。委員からは、内容に関する助言のほか、Ⅰ、Ⅱで学んだものをⅢで活用するような全体の関連性を持たせること、その点を前文等できちんと説明すること、Ⅲは疾患の網羅性を追及すると際限がないため例示でよいと考えるが、その点に関しても説明を加えるべき等、よりシラバスの趣旨が理解されるための方策に関する助言も得た。

なお、今後患者等のニーズに応じて強化・充実すべき「高度薬学管理機能」や「健康サポート薬局機能」との関連も踏まえて検討した。

２．「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」

本報告書〈別冊〉のとおり。

Ⅲ　指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）の開催

１．指導者研修会の開催方針・枠組みの検討（指導者研修委員会）

指導者研修会は、地域における事業の企画実行を担う指導的立場の者としての資質向上や研修方略の習得等を図るとともに、地域における研修において到達目標とする知識・技能レベルの共有等を目的として開催することとした。

また、指導者研修会の開催方針及び枠組み（日程・受講者・名称）は昨年度事業からの継続性を考慮しつつ、以下のような点に考慮して決定した。

〈日程〉

研修時間については昨年度と同様に連続した２日間とした。１日目はこれまでの薬剤師の職能や医薬分業政策等の変遷、薬剤師を取り巻く現状について理解を深め、目指すべき薬剤師のビジョンを共有した上で、今後より充実が求められる、薬学的視点による疾病管理と患者へのアプローチの方略に関するプログラムとした。続く２日目は薬局薬剤師業務の社会的認知ならびに評価につながるためのエビデンス化の手法についてのプログラムとした。

これらのプログラムを一貫して受講することにより、地域における薬局ビジョンの実現に向けた取り組みやエビデンスの創出など、地域の指導的立場を担い、地域医療のより一層の充実につなげることのでき得る薬剤師の育成を目指した。

開催日程については研修時間が確保できかつ薬剤師が参加しやすい日曜日を含む連休に設定することとし、昨年度と同時期の２月 10 日（日）～ 11 日（月・祝）とした。

〈受講者〉

指導者研修会の受講者は、昨年度と同様に原則 40 歳代までの薬剤師とした。これは、「患者のための薬局ビジョン」が示す理念等を踏まえ、地域包括ケアシステムの実現（2025 年目途）を見据えながら、地域の医療政策の変化や将来構想などの政策的背景も考慮した上で、将来の指導的立場を担う若い世代を牽引していく者の育成という点を考慮したものである。

募集方法は、都道府県薬剤師会からの推薦枠（各県２名）及び一般受講者（若干名）とした。

〈名称〉

指導者研修会の趣旨及び昨年度からの継続性を考慮し、「次世代薬剤師指導者研修会」とした。

これらの開催方針・枠組みを決定した上で、事業実施委員会にて研修会プログラムの案を検討し、平成 30 年 12 月６日に開催した指導者研修委員会において研修会プログラムを決定し、プログラムに応じた２つのワーキンググループを設置し、具体的な検討を行った。

■ワーキンググループ１（１日目プログラム）：

テーマ１　薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質

テーマ２　直近の政策課題

テーマ３　かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ

■ワーキンググループ２（２日目プログラム）：

テーマ４　かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法

２．研修会内容の検討（ワーキンググループ）

各ワーキンググループでは、各日のプログラムについての「ねらい」を検討した上で、具体的なプログラムの検討及び講師の選定を行った。

また受講者には、研修内容の理解をより深めるとともにワークショップや討議がスムーズに行えるよう、事前課題（いわゆる予習）を課すこととした【資料２】。

１日目

テーマ１	薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質
ねらい	・現在までの薬剤師の職能の変遷と社会的背景を理解し、今後目指すべき薬剤師のビジョンを共有する。 ・薬機法改正の議論について知り、その背景・今後の展望を理解する。
形式	講義
事前課題	患者のための薬局ビジョン（厚生労働省） 厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会とりまとめ

テーマ２	直近の政策課題
ねらい	・直近の政策課題である AMR（薬剤耐性）対策における薬剤師の役割を理解する
形式	講義
事前課題	－

テーマ３	かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ
ねらい	・根拠に裏打ちされた薬剤師業務を目指し、EBM を用いた薬学的視点の構築について全般的な手法を理解する。 ・薬学的視点による疾病管理と患者アプローチの基礎となる考え方を理解し、患者に適用できる。 ・薬物治療の最適化のために患者や他職種に対し相談・提案できる。 ・地域のリソースに合せた研修を立案できる。
形式	講義及びワークショップ
事前課題	高血圧治療ガイドライン 2014（日本高血圧学会）

２日目

テーマ４	かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法

ねらい	・過去の事例をもとにエビデンス化の重要性を理解する。 ・薬剤師業務と臨床研究との関連を理解する。 ・エビデンス化に向けて研究計画を作成する手法を理解する。 ・各地域での薬剤師業務のエビデンス化に向けた研究計画を立案できる。
形式	講義及びグループワーク
事前課題	研究倫理審査申請準備ガイド～研究計画書の記載方法～（日本薬剤師会）

参考まで、指導者研修会プログラムと研修シラバスとの関連を図５（図中緑の点線枠囲みの項目が今回の指導者研修会に含まれる研修内容である）に示す。

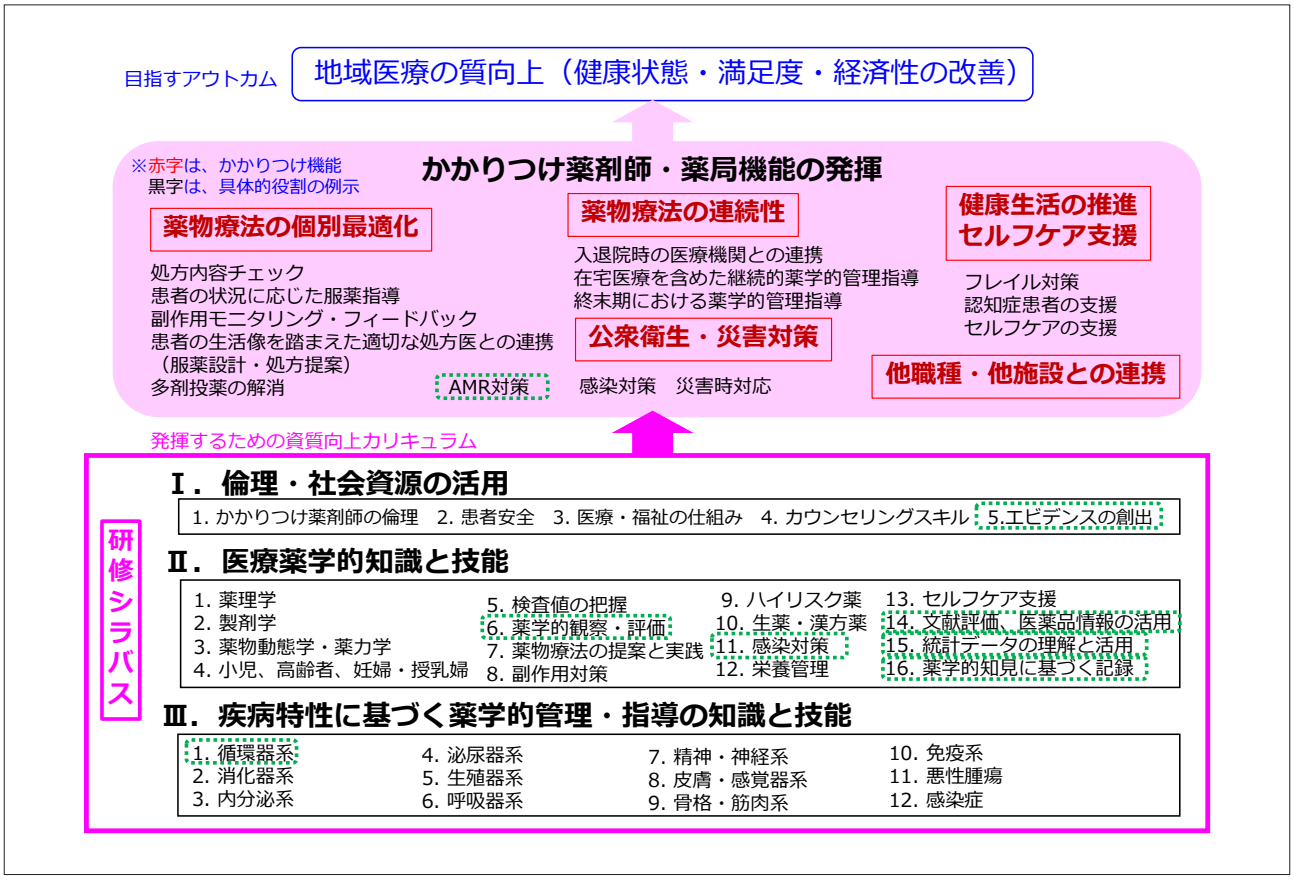


図５　研修シラバスと指導者研修会プログラムの関連

また、テーマ３に関しては、指導者研修会ではワークショップ形式で行うが、地域で同様のワークショップを行うことが難しい場合を想定し、地域における研修を企画する指導者向けという点から、ワークショップの主題だけでなく、地域の実情に応じて（講師やファシリテーターの人材、研修会にとれる時間数や時間配分、参加人数等）、地域における実践的な研修を計画・実施する際のポイント等についても研修内容に含めることとした。

３．都道府県薬剤師会等での取り組みにつなげる方策の検討（指導者研修委員会）

指導者研修会を都道府県薬剤師会等での取り組みにつなげるため、昨年度と同様、受講者への事後課題を課すこととした（事後課題の詳細は４-（５）参照）。

資料２　次世代薬剤師指導者研修会　受講者事前課題

平成 30 年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
次世代薬剤師指導者研修会　事前課題

本研修会では、主に下記の項目を研修します。関連する資料（以下①～④）にお目通しの上、また、あらかじめ自都道府県の状況の情報収集を行った上（いわゆる予習）で受講をお願いします。資料を提出いただく必要はありません。

研修項目：薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質

講義 1、講義 2　関連資料

①　患者のための薬局ビジョン
厚生労働省ホームページ
ホーム ＞ 政策について ＞ 分野別の政策一覧 ＞ 健康・医療 ＞ 医薬品・医療機器 ＞ 薬局・薬剤師に関する情報
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/yakkyoku_yakuzai/index.html

②　厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会とりまとめ
厚生労働省ホームページ
ホーム ＞ 政策について ＞ 審議会・研究会等 ＞ 厚生科学審議会(医薬品医療機器制度部会) ＞ 「厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会」の「とりまとめ」を公表します
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_03030.html

研修項目：かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ

ワークショップ 1　関連資料

③　高血圧治療ガイドライン 2014
日本高血圧学会ホームページ
HOME ＞ 医療関係者向けの情報 TOP ＞ 学会誌・刊行物等 ＞ 高血圧治療ガイドライン
http://www.jpnsh.jp/guideline.html
（電子版が無料公開されています）

研修項目：かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法

ワークショップ 2　関連資料

④　研究倫理審査　申請準備ガイド～研究計画書の記載方法～
日本薬剤師会ホームページ
HOME　＞　日本薬剤師会の活動　＞　研究倫理
https://www.nichiyaku.or.jp/activities/research/index.html

４．研修会の開催

（１）研修会概要

■研修会名称：

次世代薬剤師指導者研修会

■目的：

都道府県薬剤師会における指導的立場を担う者の資質向上や、研修シラバスに基づき実施する地域での研修の方略や知識・技能を共有することにより、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目的とする。

■主催：

公益社団法人 日本薬剤師会

■日時：

平成 31 年 2 月 10 日（日）・11 日（月・祝）

■会場：

浜松町コンベンションホール　メインホールＡ

東京都港区浜松町 2-3-1　日本生命浜松町クレアタワー５階

（２）研修会プログラム及び講師、ファシリテーター

指導者研修委員会各ワーキンググループの検討の上決定されたプログラム及び講師は以下のとおり（敬称略）。時間割等については研修会次第を参照のこと【資料３】。

【１日目】

テーマ：薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質

	演題・講師
講義１	医薬分業の歴史と現状 山本　信夫（日本薬剤師会会長）
講義２	かかりつけ薬剤師に関する現状と課題 豊見　敦（日本薬剤師会常務理事）

テーマ：直近の政策課題

	演題・講師
講義３	薬剤師によるＡＭＲ対策 村木　優一（京都薬科大学教授）

テーマ：かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ

	演題・講師
講義４	医薬品情報の活用と EBM 髙田　充隆（近畿大学薬学部教授）
講義５	薬学的管理の手法と患者アプローチ 山本　雄一郎（アップル薬局）
ワーク ショップ	薬学的視点による患者対応・処方提案ができる薬剤師を作るには 早川　達（北海道科学大学薬学部教授） 鹿村　恵明（東京理科大学薬学部教授）

ワークショップファシリテーター：

日本薬剤師会　医薬分業対策委員会

山田　武志、澤上　克彦、森中　裕信、村杉　紀明、羽尻　昌功、
小屋敷　淳子、木原　太郎

【２日目】

テーマ：かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法

	演題・講師
講義６	臨床疫学研究の進め方～薬局薬剤師業務のエビデンス化に向けて～ 鹿村　恵明（東京理科大学薬学部教授）
講義７	都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み 宮﨑　長一郎（日本薬剤師会常務理事）
講義８	薬局薬剤師による介入研究の取り組み 岡田　浩（国立病院機構京都医療センター臨床研究センター 予防医学研究室・研究員／京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野・研修員）
講義９	研究計画書作成と倫理審査～研究を開始するにあたっての心構え～ 山本　康次郎（日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会委員長）
ワーク ショップ	都道府県薬剤師会事業のエビデンス化へ向けた研究計画の作成 研究テーマ「HbA1c 検体測定事業による薬局での健康サポート効果の検証」 竹内　尚子（日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会委員） 崔　吉道（日本薬剤師会理事）

ワークショップファシリテーター

日本薬剤師会　臨床・疫学研究推進委員会

飯嶋　久志、氏原　淳、神村　英利

日本医療薬学会　専門薬剤師育成委員会保険薬局薬剤師認定制度検討 WG

吉山　友二、出石　啓治、伊藤　譲

（3）研修会の開催

都道府県薬剤師会から推薦された受講者と一般受講者が研修会を受講した。受講者数は以下のとおり。

都道府県薬剤師会推薦枠　91 名

一般募集　５名（申込６名、１名体調不良による欠席）計 96 名【資料４】

研修会はプログラムどおりに進行し、ワークショップ及びグループ討議では受講者による活発な議論が交わされた。各講義及びワークショップの資料は【巻末資料１】のとおり。

１県のみ１日目と２日目の受講者が異なった以外は全員が全日程を受講し、94 名に次世代薬剤師指導者研修会の修了証を交付した。また、２日目のプログラムを受講した者には、研究倫理に関する研修修了証も交付した。

研修会の運営リソース等については【巻末資料２】のとおり。ワークショップ形式を含むことから座席は島型配置とし、地域性を特段考慮する必要がないことからグループに同一県の受講者が含まれないよう配置した。

なお昨年度は地域医療提供体制と密接に関連する研修内容であったため同一県・近隣県を同じグループとしており、受講者アンケートや昨年度事業成果の活用状況調査結果はその点が地域連携や情報交換につながるとの評価も得た。グループの分け方については研修内容も踏まえて柔軟に判断するのが良いと考える。

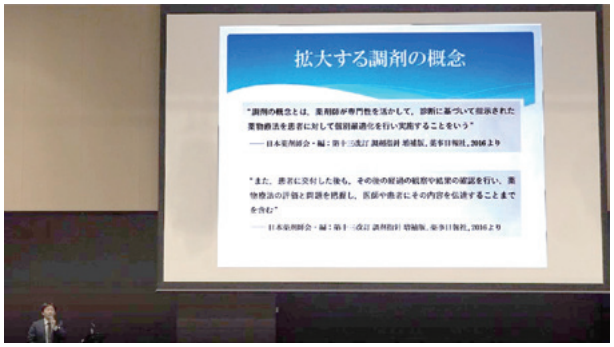


写真１　講義の様子

写真２　ワークショップの様子（１日目）

写真３　ワークショップの様子（２日目）

写真４　修了証交付の様子

平成30年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業　次世代薬剤師指導者研修会プログラム

会場：浜松町コンベンションホール　メインホールA

1日目(2月10日・日)

司会：豊見　敦（日本薬剤師会　常務理事）

テーマ：薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質

ねらい				演題	講師
・現在までの薬剤師の職能の変遷と社会的背景を理解し、今後目指すべき薬剤師のビジョンを共有する。 ・薬機法改正の議論について知り、その背景・今後の展望を理解する。	10:00	－	開会		
	10:00～10:05	5分	開会挨拶		田尻　泰典（日本薬剤師会　副会長）
	10:05～10:25	20分	趣旨説明		宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
	10:25～10:55	30分	講義１	医薬分業の歴史と現状	山本　信夫（日本薬剤師会 会長）
	10:55～11:45	50分	講義２	かかりつけ薬剤師に関する現状と課題	豊見　敦（日本薬剤師会 常務理事）
	11:45～12:00	15分	休憩		

テーマ：直近の政策課題

ねらい				演題	講師
直近の政策課題であるAMR（薬剤耐性）対策における薬剤師の役割を理解する	12:00～12:50	50分	講義３	薬剤師によるAMR対策	村木　優一先生（京都薬科大学　教授）
	12:50～13:35	45分	昼食（弁当）		

テーマ：かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ

ねらい				演題	講師
・根拠に裏打ちされた薬剤師業務を目指し、EBMを用いた薬学的視点の構築について全般的な手法を理解する。 ・薬学的視点による疾病管理と患者アプローチの基礎となる考え方を理解し、患者に適用できる。 ・薬物治療の最適化のために患者や他職種に対し相談・提案できる。 ・地域のリソースに合せた研修を立案できる。	13:35～14:25	50分	講義４	医薬品情報の活用とEBM	髙田　充隆先生（近畿大学薬学部　教授）
	14:25～15:15	50分	講義５	薬学的管理の手法と患者アプローチ	山本　雄一郎先生（アップル薬局）
	15:15～15:30	15分	休憩		
	15:30～18:10	160分	■ワークショップ１「薬学的視点による患者対応・処方提案ができる薬剤師を作るには」		
	15:30～15:40	10分	ワークショップ導入：WS1の目的と意義	各地域での研修実施に向けて	講師： 早川　達先生（北海道科学大学薬学部　教授） 鹿村　恵明先生（東京理科大学薬学部　教授） ファシリテーター： ＜日本薬剤師会医薬分業対策委員会＞ 山田　武志、澤上　克彦、森中　裕信、村杉　紀明、羽尻　昌功、小屋敷　淳子、木原　太郎
	15:40～17:55	140分	基調講演	ガイドラインの患者への活かし方	
			ワークショップ１	グループワーク 病態と患者特性に基づく薬学的管理・指導 課題「高血圧」	
	18:00～18:10	10分	ワークショップ１	まとめ	
	18:10	－	閉会		
・本年度事業の自都道府県での実践にむけて、前年度事業の各都道府県での展開事例を知る。	18:30～20:00	90分	情報交換会	適宜、ミニプレゼンテーション 「都道府県薬剤師会における昨年度事業成果の活用事例」（5分×3都道府県）	司会：島田　光明（日本薬剤師会　常務理事） 挨拶：山本　信夫（日本薬剤師会　会長）

2日目(2月11日・月祝)

テーマ：かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法

ねらい				演題	講師
・過去の事例をもとにエビデンス化の重要性を理解する。 ・薬剤師業務と臨床研究との関連を理解する。 ・エビデンス化に向けて研究計画を作成する手法を理解する。 ・各地域での薬剤師業務のエビデンス化に向けた研究計画を立案できる。	9:15	－	開会		
	9:15～10:00	45分	講義６	臨床疫学研究の進め方～薬局薬剤師業務のエビデンス化に向けて～	鹿村　恵明先生（東京理科大学薬学部　教授）
	10:00～10:45	45分	講義７	都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み	宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
	10:45～11:00	15分	休憩		
	11:00～11:45	45分	講義８	薬局薬剤師による介入研究の取り組み	岡田　浩先生（国立病院機構京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室・研究員／京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野・研修員）
	11:45～12:30	45分	講義９	研究計画書作成と倫理審査～研究を開始するにあたっての心構え～	山本　康次郎（日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会　委員長）
	12:30～13:15	45分	昼食（弁当）		
	13:15～15:55	160分	■ワークショップ２「都道府県薬剤師会事業のエビデンス化へ向けた研究計画の作成」		
	13:15～13:45	30分	ワークショップ導入	研究計画書の作成について「研究計画書記載時のポイント」	竹内　尚子（日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会　委員）
	13:45～15:45	120分	ワークショップ２	グループワーク 都道府県薬剤師会の事業を研究として組み立て、研究計画書を作成する	ファシリテーター： ＜日本薬剤師会臨床・疫学研究推進委員会＞ 飯嶋　久志、氏原　淳、神村　英利 ＜日本医療薬学会専門薬剤師育成委員会保険薬局薬剤師認定制度検討WG＞ 吉山　友二先生、出石　啓治先生、伊藤　譲先生
	15:45～15:55	10分	ワークショップ２	まとめ、研究計画書作成例の説明	崔　吉道（日本薬剤師会　理事）
	15:55～16:00	5分	課題説明	受講者提出課題の説明	宮﨑　長一郎（日本薬剤師会　常務理事）
	16:00～16:15	15分	総括	アンケート記入・2日間の研修の総括・修了証交付	乾　　英夫（日本薬剤師会　副会長）
	16:15		閉会挨拶		吉田　力久（日本薬剤師会　常務理事）

資料４　出席者名簿

平成30年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
次世代薬剤師指導者研修会

日　時：平成31年2月10日（日）10:00～18：15
同11日（月・祝）12：00～16：30
場　所：浜松町コンベンションホール メインホールＡ

※敬称略

都道府県薬剤師会

都道府県	座席番号	氏名	役職	座席番号	氏名	役職
北海道	1	岩尾　一生	病診委員会 委員長	54	片山　真二	
青　森	2	坂井　義人	常務理事			
岩　手	3	八巻　貴信	常務理事	55	大橋　正和	生涯教育推進委員会委員
宮　城	4	土佐　貴弘	理事	56	手代木　貴也	理事
秋　田	5	岡本　寛巳		57	大越　雄一郎	本荘由利支部幹事長
山　形	6	佐藤　悠人	リスクマネージメント委員会委員	58	中村　雄太郎	
福　島	7	小澤　佳嗣	理事／在宅医療推進委員会委員	59	菅原　秀樹	かかりつけ薬局推進委員会委員
茨　城	8	立原　麻里子	薬局業務委員会委員	60	沼倉　貴史	
栃　木	9	村井　加代子	常務理事	61	加藤　誠一	理事
群　馬	10	髙野　由博	常務理事	62	長谷川　史朗	理事
埼　玉	11	抜井　留理子	理事	63	星　知子	
千　葉	12	横田　秀太郎	理事			
東　京	13	根本　陽充	理事	64	長谷川　晃一	東京都済生会中央病院薬剤部技師長代理
神奈川	14	伊藤　啓	常務理事	65	牛腸　裕介	理事
新　潟	15	長澤　貴明	理事/医薬分業委員	66	田中　友康	医薬分業委員
富　山	16	内田　陽一	理事	67	安吉　万里子	生涯教育研修委員会委員
石　川	17	坂野　由宇希	開局常任幹事	68	森戸　敏志	理事
福　井	18	水上　弘樹	理事	69	嶋田　千穂	
山　梨	19	宮野　里美	生涯学習委員	70	清水　アユミ	生涯学習委員
長　野	20	藤森　和良	常務理事	71	南　修	薬局経営委員会副委員長
岐　阜	21	小池　紫	薬局委員会（職能対策 グループ ）委員 研修委員会（薬学生実務習 グループ ）委員	72	河合　良幸	委員薬局委員会（介護在宅 グループ ）委員/研修委員会（スキルアップ グループ［健康サポート 薬局 ］）委員
静　岡	22	服部　隆志	常務理事	73	秋山　将寛	生涯学習委員会委員
愛　知	23	（1日目） 大島　秀康	常務理事			
		（2日目） 橋村　孝博	常務理事			
三　重	24	水谷　賀典	副会長	74	髙井　靖	理事
滋　賀	25	大迫　翔平	職能対策委員会委員	75	柏川　紗希	医療保険委員会委員
京　都	26	大垣　聡彦	理事	76	堀内　望	若手病院薬剤師カンファレス実行委員
大　阪	27	濱口　良彦	理事	77	松浦　正佳	理事
兵　庫	28	畑　世剛	地域医療部委員	78	蓬莱 茂希	情報広報部委員 薬学教育部委員
奈　良	29	福井　康至	理事	79	國重　勝也	西奈良中央病院薬剤科
和歌山	30	森﨑　隆宏	常務理事	80	坪山　晃大	常務理事
鳥　取	37	門脇　正明	就業促進委員会委員	81	渡部　真輔	医薬分業対策委員会委員
島　根	38	山田島　智治	常務理事	82	島田　三和	理事
岡　山	39	寺井　竜平	理事	96	岡本　達明	学術委員会　副委員長 災害対策特別委員会 副委員長 相互扶助委員会　委員
広　島	40	平本　敦大	常務理事	83	有村　典謙	常務理事
山　口	41	原　洋司	常務理事	84	河田　尚己	理事
徳　島	42	伊勢　佐百合	専務理事			
香　川	43	髙島　望	理事	85	宮﨑　朝信	
愛　媛	44	宮内　光司	松山支部常務理事	86	野町　和久	松山支部常務理事
高　知	45	伊藤　悠人	理事	87	植田　隆	医療保険委員会委員
福　岡	46	髙瀬　真悟	理事	88	清水　敦	医療保険委員会委員 ＤＩ委員会委員
佐　賀	47	青木　孝司	理事	89	増田　泉	理事
長　崎	48	宮﨑　彰宣	常務理事	90	寺田　義和	理事
熊　本	49	久保田　忍	地域医療委員会委員	91	三渕　博史	地域医療委員会委員
大　分	50	菊池　幸助	医療福祉委員会委員	92	長野　曲来	医療福祉委員会委員
宮　崎	51	黒木　慎也	理事	93	落合　晋介	理事
鹿児島	52	井上　彰夫	理事	94	中島　啓	理事
沖　縄	53	西川　裕	常務理事	95	潮平　英郎	

一般参加

都道府県	座席番号	氏名
北海道	31	伊藤　優
広　島	32	荒川　隆之
－	33	欠席
鳥　取	34	松本　一宏
栃　木	35	高橋　佑生
埼　玉	36	小沢　好貴

日本薬剤師会

会長	山本　信夫
副会長	田尻　泰典
副会長	乾　英夫
副会長	森　昌平
副会長	川上　純一
常務理事	宮﨑　長一郎
常務理事	豊見　敦
常務理事	吉田　力久
常務理事	島田　光明
常務理事	渡邊　大記
理事	鵜飼　典男
理事	髙松　登
理事	崔　吉道
理事	石野　良和

日本薬剤師会　医薬分業対策委員会
（WS1ファシリテーター）

委員長	山田　武志
副委員長	村杉　紀明
委員	澤上　克彦
委員	森中　裕信
委員	羽尻　昌功
委員	小屋敷　淳子
委員	木原　太郎

日本薬剤師会　臨床・疫学研究推進委員会
（WS2講師・ファシリテーター）

委員長	山本　康次郎
副委員長	飯嶋　久志
委員	竹内　尚子
委員	氏原　淳
委員	神村　英利

日本医療薬学会専門薬剤師育成委員会保険薬局薬剤師認定制度検討WG
（WS2ファシリテーター）

委員	出石　啓治
委員	吉山　友二
委員	伊藤　譲

事業委員会

委員	桒原　健 （日本病院薬剤師会）

（4）情報交換会の開催

昨年度の受講者アンケートにて情報交換会を希望する意見があったこと、また受講者同士の情報交換は有意義であると考え、会費制の情報交換会を開催した。情報交換会では、昨年度の次世代薬剤師指導者研修会を受けた都道府県薬剤師会での取組事例報告を行うこととし、群馬県薬剤師会、広島県薬剤師会から報告いただいた。

昨年度の次世代薬剤師指導者研修会は薬薬連携を主たるテーマとしたことから、両事例とも薬局薬剤師・病院薬剤師の両方を対象として研修会が企画・実施されていた。報告事例として選出したポイントは、群馬県薬剤師会については、ワークショップ形式の参加型の研修会として地域に応じた講師を依頼して行われた点、広島県薬剤師会についてはそれに加えて、地域単位で研修会を水平展開する組織的な取組が行われていた点であり、研修会の企画にあたって重視した点や工夫した点のほか、反省点や今後の課題についても報告いただいた。ただし、飲食を伴う場での事例報告であったこともあり、会話がやまない中での事例報告となったことは主催者として反省すべき点である。

報告内容は【巻末資料３－２】のとおり。

報告者（敬称略）：

高野　由博（群馬県薬剤師会　常務理事／教育研修委員会委員長）

荒川　隆之（広島県薬剤師会　次世代指導薬剤師特別委員会副委員長）

（5）受講者への事後課題

研修会２日目プログラム「テーマ：かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法」では、全員が１つの研究課題（HbA1c 検体測定事業による薬局での健康サポート効果の検証）について、研究計画書を作成するグループワークを行った。これを受けて事後課題として、各都道府県薬剤師会が過去に実施した事業を題材とした研究計画書の作成を受講者の事後課題とした（一般受講者は、題材は問わないとした）【資料５】。

事後課題の作成を通じて、都道府県薬剤師会における様々な事業を研究（エビデンスの創出）の視点で取り組む体制に変えていく必要性について、受講者、また受講者を推薦した都道府県薬剤師会の理解が深まることを期待した。

なお、作成された事後課題については、第三者が目にしたときに、倫理審査を通った研究計画であるとの誤解を生む可能性や、新規性のある計画が含まれる場合に秘匿性が低くなることから、本報告書には掲載していない。

資料５　次世代薬剤師指導者研修会　受講者事後課題

参加者の皆様へ

次世代薬剤師指導者研修会「事後課題」ご提出のお願い
～ワークショップ２（研究計画）の研修を受けて～

今回の「次世代薬剤師指導者研修会」では、これまで各都道府県薬剤師会で実施してきた事業が、結果的に世の中の日の目を見ない（やりっぱなしになっている）現状があることから、研究（エビデンスの創出）の視点で取り組む体制に変えていく必要性をご理解いただくため、研修会２日目のワークショップで、「かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法」をテーマに、一つの例を用いて、研究計画化する方法を実践する研究計画書の作成について研修いただきました。
つきましては、事後課題として下記のご提出をお願いいたします。

記

１．事後課題の内容について
【都道府県薬剤師会よりご参加の方】
所属する薬剤師会とご相談の上、過去の事業を題材として研究計画書を作成してください。
参加者２名の場合は、相談の上１つの研究計画書を提出、または、それぞれが異なる研究計画書を提出、のいずれでも結構です。
【一般参加の方】ご自身の研究計画書を作成し提出してください。

≪共通事項・作成上のポイント≫
・過去の事業に足りなかった要素を追加して、研究として成立するように考える。
・テーマは、ワークショップ２の研究計画書作成例として用いたHbA1C以外とする。

２．事後課題の記入様式の入手について
日本薬剤師会ホームページよりダウンロードをお願いします。
【掲載場所】
日本薬剤師会ホームページ　＞　日本薬剤師会の活動　＞　研究倫理 ＞　臨床・疫学研究　倫理審査申請について
【ファイル名・３種類あり】
・研究計画書記載例（アンケート調査）（Word）
・研究計画書記載例（介入なし侵襲なし）（Word）
・研究計画書記載例（介入研究）（Word）

３．提出期限、提出先
平成31年２月28日（木）
事業事務局メールアドレス：xxxx@xxx.xx.xx

４．その他
研究計画の題材が基本的に過去の事業であることから、研究計画（書）の評価は行いません。
また、報告書への事後課題の収載については、第三者が目にしたときに、倫理審査を通った研究計画であるとの誤解を生む可能性や、新規性のある計画が含まれる場合に秘匿性が低くなることから予定しておりません。

以上

Ⅳ　事業の評価

1．指導者研修会受講者アンケート

研修効果の測定、研修プログラムの評価を目的として、受講前後に受講者アンケートを実施した。

結果は以下のとおり。

■回収率

受講前：100%（95 ／ 95 人）

終了後：97.9%（93 ／ 95 人）

※「回答に同意する」にチェックのないアンケート票については、提出をもって同意とみなした。ただし意見欄については集計対象から除外した。

■勤務先比率

薬局が 9 割、病院が 1 割であった。

■基本情報

男女比率：おおよそ、女性が 1.5 割、男性が 8.5 割

年齢比率：30 代が 4 割、40 代が 5 割。例外的に 50 代の受講もあった。

受講者の基本情報は昨年度もほぼ同様であったが、女性比率が若干昨年度より低かった。

■受講者アンケート（受講前）

平成30年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
次世代薬剤師指導者研修会
受講者アンケート（受講前）まとめ

回収率：95人/95人　100.0%

1.回答者の基本情報

		数	%
①勤務先	1：薬局	84	88.4%
	2：病院・診療所	10	10.5%
	3：その他	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%
②性別	1：女性	13	13.7%
	2：男性	81	85.3%
	無回答・無効回答	1	1.1%
③年齢	1：20代	2	2.1%
	2：30代	39	41.1%
	3：40代	47	49.5%
	4：50代以上	7	7.4%
	無回答・無効回答	0	0.0%

1-④.本研修会への参加理由（複数選択可）

都道府県薬剤師会から推薦されたから	91	95.8%
地域の指導的立場として活動したいから	14	14.7%
地域の研修の企画・指導に役立てたいから	23	24.2%
薬局ビジョンの実現に向けた行動を進めたいから	22	23.2%
その他	2	2.1%

2.研修会で身に付けたいことは？（複数選択可）

①薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質	73	76.8%
②直近の政策課題～薬剤師によるAMR対策	76	80.0%
③かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ	83	87.4%
④かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法	82	86.3%

2-2.研修会で最も関心があるテーマは？（1つだけ選択）

①薬剤師を取り巻く社会的情勢と医薬分業の本質	9	9.5%
②直近の政策課題～薬剤師によるAMR対策	10	10.5%
③かかりつけ薬剤師の薬学的視点による疾病管理と患者アプローチ	34	35.8%
④かかりつけ薬剤師業務及び薬剤師会事業の社会的認知ならびに評価につなげるためのエビデンス化の手法	33	34.7%
無回答・無効回答	9	9.5%

3.現段階での自己評価

①現在までの薬剤師の職能の変遷と社会的背景を理解し、今後目指すべき薬剤師のビジョンを共有する。	1：できている	11	11.6%
	2：できているが不十分	57	60.0%
	3：あまりできていない	25	26.3%
	4：ほとんどできていない	1	1.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%
②薬機法改正の議論について知り、その背景・今後の展望を理解する。	1：できている	11	11.6%
	2：できているが不十分	35	36.8%
	3：あまりできていない	43	45.3%
	4：ほとんどできていない	3	3.2%
	無回答・無効回答	3	3.2%
③直近の政策課題である、AMR（薬剤耐性）対策における薬剤師の役割を理解する。	1：できている	5	5.3%
	2：できているが不十分	32	33.7%
	3：あまりできていない	46	48.4%
	4：ほとんどできていない	10	10.5%
	無回答・無効回答	2	2.1%

④根拠に裏打ちされた薬剤師業務を目指し、EBMを用いた薬学的視点の構築について全般的な手法を理解する。	1:できている	4	4.2%
	2:できているが不十分	25	26.3%
	3:あまりできていない	55	57.9%
	4:ほとんどできていない	10	10.5%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑤薬学的視点による疾病管理と患者アプローチの基礎となる考え方を理解し、患者に適用できる。	1:できている	6	6.3%
	2:できているが不十分	41	43.2%
	3:あまりできていない	46	48.4%
	4:ほとんどできていない	1	1.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑥薬物治療の最適化のために患者や他職種に対し相談・提案できる。	1:できている	16	16.8%
	2:できているが不十分	49	51.6%
	3:あまりできていない	27	28.4%
	4:ほとんどできていない	2	2.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑦地域のリソースに合せた研修を立案できる。	1:できている	5	5.3%
	2:できているが不十分	25	26.3%
	3:あまりできていない	47	49.5%
	4:ほとんどできていない	17	17.9%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑧過去の事例をもとにエビデンス化の重要性を理解する。	1:できている	6	6.3%
	2:できているが不十分	29	30.5%
	3:あまりできていない	46	48.4%
	4:ほとんどできていない	12	12.6%
	無回答・無効回答	2	2.1%
⑨薬剤師業務と臨床研究との関連を理解する。	1:できている	2	2.1%
	2:できているが不十分	28	29.5%
	3:あまりできていない	48	50.5%
	4:ほとんどできていない	16	16.8%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑩エビデンス化に向けて研究計画を作成する手法を理解する。	1:できている	2	2.1%
	2:できているが不十分	12	12.6%
	3:あまりできていない	47	49.5%
	4:ほとんどできていない	33	34.7%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑪各地域での薬剤師業務のエビデンス化に向けた研究計画を立案できる。	1:できている	3	3.2%
	2:できているが不十分	9	9.5%
	3:あまりできていない	43	45.3%
	4:ほとんどできていない	39	41.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%

■受講者アンケート（受講後）

平成30年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
次世代薬剤師指導者研修会
受講者アンケート（受講後）まとめ

回収率：93人/95人 **97.9%**

母数は回答数

		数	%
①勤務先	1：薬局	84	90.3%
	2：病院・診療所	9	9.7%
	3：その他	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
②性別	1：女性	13	14.0%
	2：男性	79	84.9%
	無回答・無効回答	1	1.1%
③年齢	1：20代	2	2.2%
	2：30代	38	40.9%
	3：40代	46	49.5%
	4：50代以上	7	7.5%
	無回答・無効回答	0	0.0%

1-④.本研修会への参加理由（複数選択可）

都道府県薬剤師会から推薦されたから	87	93.5%
地域の指導的立場として活動したいから	9	9.7%
地域の研修の企画・指導に役立てたいから	21	22.6%
薬局ビジョンの実現に向けた行動を進めたいから	21	22.6%
その他	5	5.4%

2.研修会はいかがでしたか？

①日程の設定	1：適切	63	67.7%
	2：どちらとも	25	26.9%
	3：不適切	5	5.4%
	無回答・無効回答	0	0.0%
②全体の時間の長さ	1：適切	59	63.4%
	2：どちらとも	21	22.6%
	3：不適切	13	14.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
③研修の流れ（進行）	1：適切	71	76.3%
	2：どちらとも	18	19.4%
	3：不適切	4	4.3%
	無回答・無効回答	0	0.0%
④全体として	1：適切	77	82.8%
	2：どちらとも	14	15.1%
	3：不適切	2	2.2%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑤ワークショップにスムーズに参加できましたか？	1：はい	67	72.0%
	2：どちらとも	23	24.7%
	3：いいえ	3	3.2%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑥日頃の業務に活かせそうですか？	1：はい	76	81.7%
	2：どちらとも	16	17.2%
	3：いいえ	1	1.1%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑦地域での実践に活かせそうですか？	1：はい	68	73.1%
	2：どちらとも	24	25.8%
	3：いいえ	1	1.1%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑧研修会の企画に活かせそうですか？	1：はい	73	78.5%
	2：どちらとも	18	19.4%
	3：いいえ	2	2.2%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑨薬剤師業務及び薬剤師会事業のエビデンス化に活かせそうですか？	1：はい	66	71.0%
	2：どちらとも	25	26.9%
	3：いいえ	2	2.2%
	無回答・無効回答	0	0.0%

3.今後、実践できそうですか

①現在までの薬剤師の職能の変遷と社会的背景を理解し、今後目指すべき薬剤師のビジョンを共有する。	1:できる	28	30.1%
	2:ある程度できる	59	63.4%
	3:あまりできない	6	6.5%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
②薬機法改正の議論について知り、その背景・今後の展望を理解する。	1:できる	24	25.8%
	2:ある程度できる	63	67.7%
	3:あまりできない	6	6.5%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
③直近の政策課題である、AMR(薬剤耐性)対策における薬剤師の役割を理解する。	1:できる	32	34.4%
	2:ある程度できる	53	57.0%
	3:あまりできない	7	7.5%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%
④根拠に裏打ちされた薬剤師業務を目指し、EBMを用いた薬学的視点の構築について全般的な手法を理解する。	1:できる	23	24.7%
	2:ある程度できる	60	64.5%
	3:あまりできない	10	10.8%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑤薬学的視点による疾病管理と患者アプローチの基礎となる考え方を理解し、患者に適用できる。	1:できる	28	30.1%
	2:ある程度できる	62	66.7%
	3:あまりできない	2	2.2%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑥薬物治療の最適化のために患者や他職種に対し相談・提案できる。	1:できる	29	31.2%
	2:ある程度できる	55	59.1%
	3:あまりできない	9	9.7%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑦地域のリソースに合せた研修を立案できる。	1:できる	12	12.9%
	2:ある程度できる	60	64.5%
	3:あまりできない	19	20.4%
	4:できない	1	1.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑧過去の事例をもとにエビデンス化の重要性を理解する。	1:できる	33	35.5%
	2:ある程度できる	52	55.9%
	3:あまりできない	8	8.6%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑨薬剤師業務と臨床研究との関連を理解する。	1:できる	33	35.5%
	2:ある程度できる	53	57.0%
	3:あまりできない	7	7.5%
	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	0	0.0%
⑩エビデンス化に向けて研究計画を作成する手法を理解する。	1:できる	11	11.8%
	2:ある程度できる	63	67.7%
	3:あまりできない	17	18.3%
	4:できない	1	1.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%
⑪各地域での薬剤師業務のエビデンス化に向けた研究計画を立案できる。	1:できる	6	6.5%
	2:ある程度できる	56	60.2%
	3:あまりできない	27	29.0%
	4:できない	4	4.3%
	無回答・無効回答	0	0.0%

4.本研修のテーマのうち、本研修の受講前後で自身の理解が深まったと感じるテーマを①の欄にご記入ください。

【講義1】医薬分業の歴史と現状	53	57.0%
【講義2】かかりつけ薬剤師に関する現状と課題	53	57.0%
【講義3】薬剤師によるAMR対策	68	73.1%
【講義4】医薬品情報の活用とEBM	70	75.3%
【講義5】薬学的管理の手法と患者アプローチ	72	77.4%
【WS1】薬学的視点による患者対応・処方提案ができる薬剤師を作るには	77	82.8%
【講義6】臨床疫学研究の進め方～薬局薬剤師業務のエビデンス化に向けて～	70	75.3%
【講義7】都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み	57	61.3%
【講義8】薬局薬剤師による介入研究の取り組み	68	73.1%
【講義9】研究計画書作成と倫理審査～研究を開始するにあたっての心構え～	63	67.7%
【WS2】都道府県薬剤師会事業のエビデンス化へ向けた研究計画の作成	72	77.4%

また、自身の地域で今後いっそう対応を深めていく必要があると感じたテーマを②の欄にご記入ください。

【講義1】医薬分業の歴史と現状	19	20.4%
【講義2】かかりつけ薬剤師に関する現状と課題	40	43.0%
【講義3】薬剤師によるAMR対策	52	55.9%
【講義4】医薬品情報の活用とEBM	38	40.9%
【講義5】薬学的管理の手法と患者アプローチ	54	58.1%
【WS1】薬学的視点による患者対応・処方提案ができる薬剤師を作るには	64	68.8%
【講義6】臨床疫学研究の進め方～薬局薬剤師業務のエビデンス化に向けて～	36	38.7%
【講義7】都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み	43	46.2%
【講義8】薬局薬剤師による介入研究の取り組み	42	45.2%
【講義9】研究計画書作成と倫理審査～研究を開始するにあたっての心構え～	40	43.0%
【WS2】都道府県薬剤師会事業のエビデンス化へ向けた研究計画の作成	52	55.9%

2．研修会はいかがでしたか？（意見欄）

①日程の設定
他学会と重なる／２月は天候が悪く交通事情が悪すぎる／雪とかで交通が心配／土日祝が集まりやすい／平日が良い

②全体の時間の長さ
少し長い、１日がベストでは／少し内容が盛りだくさん過ぎる／長いが価値はある／長い

③研修の流れ、進行
時間が短い／１日目の WS が早すぎた／１日目の WS はもう少し時間が欲しい／早すぎる／WS の時間が短い

⑤ワークショップにスムーズに参加できましたか？
不慣れで WS の時間が短く感じた／濃密過ぎる／２日目の方はファシリテーターのサポートがほとんどなかった

⑧研修会の企画に活かせそうですか？
伝達講習をする

⑨薬剤師業務及び薬剤師会事業のエビデンス化に活かせそうですか？
統計的なことを考えて事業計画を練る必要がある／今後の検討次第

5．今後希望する研修テーマ

・緩和ケア
・薬局トリアージ、検査値を読む、ポリファーマシー対策
・EBM →研究の間にあるデータ、論文を読むことについて研修があればよい。
・薬剤師の職能を理解してもらえない要因（医師や患者の認識と薬剤師の認識のギャップ）
・薬局版機能評価の話もあることから、継続してエビデンスの話は研修に取り入れてもらえたらと思います。
・AMR アクションプランについて、薬局薬剤師として抗菌薬の考え方をもっと詳しく構築できるようになりたい。
・より質の高い処方提案、処方設計に関われるために薬物相互作用について学びたいです。
・ICT、KPI
・アウトリーチ事業
・健康サポート薬局、高度薬学管理
・薬薬連携、プレゼンテーション
・本研修は３ヵ年での実施と伺っているが、スキル維持のため講義ごとでもよいので、復習のためのブラッシュアップ講座を実施していただきたいと思います。
・コミュニケーション能力研修

６．その他感想、意見

・２日間、スタッフの先生方、講師の先生方、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
・大学とのコラボということ、今後一層考えて生きたいと思います。
・たくさんの先生の講義を聴くことができ、大変有意義な二日間でした。ありがとうございました。
・倫理審査について、受講後理解が深まりました
・長時間にわたる講義、運営ありがとうございました。非常に密度の濃い２日間となりました。
・個人としても薬剤師会としても弱い部分だったかなと思います。勉強になりました。ありがとうございました。
・自分に足りないところも見直すことができ、有益な研修会となりました。
・研修会の内容を後日動画で再学習したいです。充実した二日間、ありがとうございました。
・ご準備ありがとうございました。たくさんの学びがありました。
・スピードが速く、ついていくことで必死でした。日薬の研修には初めて参加したので、新しいことばかりで大変刺激になりました。
・お疲れ様です。計画、準備、当日の運営など大変お疲れ様でした。県に持ち帰り、各委員会と相談してしっかり事業にしていきたいと思います。２日間ありがとうございました。
・研修に参加し、今後の業務の刺激になりましたし、とても勉強になり、参加してよかったです。
・自身のスキルアップ、モチベーションアップにつながりました。これを地域に持ち帰り、しっかりと活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
・もう１・２年はこの流れで各都道府県でできる人材を増やしてください。
・貴重な勉強会を受講でき、ありがとうございました。
・大変勉強になりました。ありがとうございました。
・今後の薬剤師のあり方について学んだ２日間でした。一般参加でしたが、会員外にも門戸を開いてくださり感謝申し上げます。今後も職能団体としてこのような研修会を実施継続していただけると幸甚でございます。
・どの講義・WS もとても勉強になりました。今回の内容を活かしていけるよう、取り組んでいきたいと思います。
・休み時間のコーヒーがありがたかった。
・研修会場が浜松町がよい。（飛行機、電車で来られる人にとって）
・やはり日程的に難しいですが、特に１日目の WS の時間が短いかと、ただし、ノウハウを教えていただいたので、あとは地域に持ち帰り、時間をとってやっていけば対応できるとは思いました。
・演者が言いっぱなしの講演が多すぎる。明らかな間違いもあったが、質疑応答の時間がほとんどなかったので確認も不十分だった。
・会長の講演は聞き取りにくかった。マイクのせい？
・１日目は非常に有意義でした。２日目は自分のスキルが不足していたこともあるのかもしれませんが、印象として「論文を出すのは難しい」と感じただけでした。
・時間の関係もあったと思いますが、１日目の WS1 のワーク時間が５分ずつというのは正直厳しかったです。流れについていくので精一杯でした。
・地域に伝達しやすい内容になるように簡易にすべきではないか。
・演者も 40 代にすべき。

・WS2 を各県で実施するのは難しい。
・同一人物が複数回受講しても良いものか検討が必要。
・薬局の歴史は大変参考になりましたが、我々の世代は保険調剤が当たり前、就職したときから保険調剤が主収入源であるにもかかわらずそれを我々に対してダメだと言われましても困ると感じました。その環境を作られたのはそう発言された方であるにもかかわらず、そのような叱責をされるのは大変悲しく感じました。
・今回の研修会を参考に各地域で実践伝達するのは承知ですが、講師派遣や資料提供など積極的に支援していただきたい。
・参加者選出に際して都道府県薬剤師会への説明を十分にしてほしい。
・歴史を語るならなぜ現状「調剤」のウェイトが大きくなってしまった原因、薬剤師のメリットが見えない原因、今までの事業の反省、評価をするべきだと思う。
・WS2 の提出が紙面であり、PC や Word を用いた形式にしていただくほうがよりスムーズだったと思います。
・懇親会が 5000 円は高すぎる。情報交換が目的ならば、アルコールや食事はもっと安価な形でしても十分だと考えます。
・講義資材は PDF でもいただきたいです。
・プロジェクターに背を向ける座席だったので、見えにくかった。

（注）１日目ワークショップ１については、地域における研修を企画する指導者向けという点から、ワークショップの主題だけでなく、地域の実情に応じて（講師やファシリテーターの人材、研修会にとれる時間数や時間配分、参加人数等）、に応じて研修を企画する際のポイント等についても研修内容に含めた。講師からは、研修時間が取れない場合のアドバイスや、十分に時間がとれるのであればこのパートは○分くらいとれるとよい、等の補足を得つつワークショップを進めたことを補足する。

■受講者アンケート（受講前後）比較

受講前後の自己評価を比較すると、受講後はいずれの項目もより「できる」方に自己評価が高まっていることが確認できた。

受講前・終了後の受講者意識の比較

	受講前の自己評価			受講後の自己評価（今後実践できそうか）		
①現在までの薬剤師の職能の変遷と社会的背景を理解し、今後目指すべき薬剤師のビジョンを共有する。	1:できている	11	11.6%	1:できる	28	30.1%
	2:できているが不十分	57	60.0%	2:ある程度できる	59	63.4%
	3:あまりできていない	25	26.3%	3:あまりできない	6	6.5%
	4:ほとんどできていない	1	1.1%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	0	0.0%
②薬機法改正の議論について知り、その背景・今後の展望を理解する。	1:できている	11	11.6%	1:できる	24	25.8%
	2:できているが不十分	35	36.8%	2:ある程度できる	63	67.7%
	3:あまりできていない	43	45.3%	3:あまりできない	6	6.5%
	4:ほとんどできていない	3	3.2%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	3	3.2%	無回答・無効回答	0	0.0%
③直近の政策課題である、AMR（薬剤耐性）対策における薬剤師の役割を理解する。	1:できている	5	5.3%	1:できる	32	34.4%
	2:できているが不十分	32	33.7%	2:ある程度できる	53	57.0%
	3:あまりできていない	46	48.4%	3:あまりできない	7	7.5%
	4:ほとんどできていない	10	10.5%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	2	2.1%	無回答・無効回答	1	1.1%
④根拠に裏打ちされた薬剤師業務を目指し、EBMを用いた薬学的視点の構築について全般的な手法を理解する。	1:できている	4	4.2%	1:できる	23	24.7%
	2:できているが不十分	25	26.3%	2:ある程度できる	60	64.5%
	3:あまりできていない	55	57.9%	3:あまりできない	10	10.8%
	4:ほとんどできていない	10	10.5%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	0	0.0%
⑤薬学的視点による疾病管理と患者アプローチの基礎となる考え方を理解し、患者に適用できる。	1:できている	6	6.3%	1:できる	28	30.1%
	2:できているが不十分	41	43.2%	2:ある程度できる	62	66.7%
	3:あまりできていない	46	48.4%	3:あまりできない	2	2.2%
	4:ほとんどできていない	1	1.1%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	1	1.1%
⑥薬物治療の最適化のために患者や他職種に対し相談・提案できる。	1:できている	16	16.8%	1:できる	29	31.2%
	2:できているが不十分	49	51.6%	2:ある程度できる	55	59.1%
	3:あまりできていない	27	28.4%	3:あまりできない	9	9.7%
	4:ほとんどできていない	2	2.1%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	0	0.0%
⑦地域のリソースに合せた研修を立案できる。	1:できている	5	5.3%	1:できる	12	12.9%
	2:できているが不十分	25	26.3%	2:ある程度できる	60	64.5%
	3:あまりできていない	47	49.5%	3:あまりできない	19	20.4%
	4:ほとんどできていない	17	17.9%	4:できない	1	1.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	1	1.1%
⑧過去の事例をもとにエビデンス化の重要性を理解する。	1:できている	6	6.3%	1:できる	33	35.5%
	2:できているが不十分	29	30.5%	2:ある程度できる	52	55.9%
	3:あまりできていない	46	48.4%	3:あまりできない	8	8.6%
	4:ほとんどできていない	12	12.6%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	2	2.1%	無回答・無効回答	0	0.0%
⑨薬剤師業務と臨床研究との関連を理解する。	1:できている	2	2.1%	1:できる	33	35.5%
	2:できているが不十分	28	29.5%	2:ある程度できる	53	57.0%
	3:あまりできていない	48	50.5%	3:あまりできない	7	7.5%
	4:ほとんどできていない	16	16.8%	4:できない	0	0.0%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	0	0.0%
⑩エビデンス化に向けて研究計画を作成する手法を理解する。	1:できている	2	2.1%	1:できる	11	11.8%
	2:できているが不十分	12	12.6%	2:ある程度できる	63	67.7%
	3:あまりできていない	47	49.5%	3:あまりできない	17	18.3%
	4:ほとんどできていない	33	34.7%	4:できない	1	1.1%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	1	1.1%
⑪各地域での薬剤師業務のエビデンス化に向けた研究計画を立案できる。	1:できている	3	3.2%	1:できる	6	6.5%
	2:できているが不十分	9	9.5%	2:ある程度できる	56	60.2%
	3:あまりできていない	43	45.3%	3:あまりできない	27	29.0%
	4:ほとんどできていない	39	41.1%	4:できない	4	4.3%
	無回答・無効回答	1	1.1%	無回答・無効回答	0	0.0%

２．事業評価委員会による評価

（１）事業評価委員会の開催

指導者研修会が終了し、研修シラバス（案）がほぼ完成した３月中旬に事業評価委員会を開催した。

事業評価委員会は、事業評価委員会委員のほか、指導者研修委員会の外部委員会１名、受講者代表４名、都道府県薬剤師会会長２名に出席を求め、本会から事業担当役員（実施委員会）３名、医薬分業対策委員会委員２名が出席して開催した。

日時：平成 31 年３月 12 日（火）11 時～ 14 時 30 分

出席者（敬称略）：

事業評価委員会

加藤　裕久（昭和大学薬学部教授、事業評価委員会委員長）

吉山　友二（北里大学薬学部教授）

指導者研修委員会

桒原 健　先生（日本病院薬剤師会　専務理事）

都道府県薬剤師会

栃木県薬剤師会　会長　渡邊　和裕

大阪府薬剤師会　会長　藤垣　哲彦

次世代薬剤師指導者研修会受講者

東京都薬剤師会　根本　陽充

長野県薬剤師会　藤森　和良

日本薬剤師会　医薬分業対策委員会

委員　羽尻　昌功

委員　木原　太郎

日本薬剤師会　事業担当役員（事業実施委員会）

田尻　泰典（副会長　医薬分業担当）

宮﨑長一郎（常務理事　生涯学習担当）

豊見　　敦（常務理事　医薬分業担当）

（２）評価

評価に際しては、下記の評価の視点について、資料を用いながら出席者による協議を行った。

【評価の視点】

① 事業の実施体制について（他団体との連携体制、委員構成等）

② 研修シラバスについて（項目、内容等）

③ 指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）について（プログラム、講師、内容、日程、時間等）

④ 都道府県薬剤師会との連携・協働を踏まえた本事業の全体構想及び今後の展開について（実行性等）

【評価に用いた資料】

・薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス（案）

・次世代薬剤師指導者研修会

　・プログラム及び資料

　・受講者アンケート結果

　・受講者課題（研修会終了後に提出）

・平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業実施後調査結果及び取組事例（群馬、広島）

協議を踏まえ、事業評価委員会委員長から次のとおり総評を受けた。

平成 30 年度　薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
総評

事業評価委員会
委員長　加藤　裕久
（昭和大学薬学部　教授）

評価者：

下記の出席者により、事業評価委員会を平成 31 年 3 月 12 日（火）11：00～14：30 に開催した。

（敬称略）

事業評価委員会
　加藤　裕久（昭和大学薬学部　教授）
　吉山　友二（北里大学薬学部　教授）
指導者研修委員会
　桒原 健（日本病院薬剤師会　専務理事）
都道府県薬剤師会
　渡邊　和裕（栃木県薬剤師会　会長）
　藤垣　哲彦（大阪府薬剤師会　会長）
次世代薬剤師指導者研修会受講者
　根本　陽充（東京都薬剤師会）
　藤森　和良（長野県薬剤師会）
日本薬剤師会　医薬分業対策委員会
　委員　羽尻　昌功
　委員　木原　太郎
日本薬剤師会　事業担当役員（事業実施委員会）
　担当副会長　　田尻　泰典（副会長　医薬分業担当）
　担当常務理事　宮﨑長一郎（常務理事　生涯学習担当）
　担当常務理事　豊見　　敦（常務理事　医薬分業担当）

評価方式：

事業評価委員会の出席者による意見交換を踏まえ、事業評価委員会委員長が以下「評価の視点」に基づいて総評した。なお評価の際には以下の資料を用いた。

・薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス（案）
・次世代薬剤師指導者研修会プログラム及び資料、受講者アンケート結果、受講者課題（研修会終了後に提出）
・平成 29 年度薬剤師生涯教育推進事業実施後調査結果及び取組事例（群馬、広島）

評価の視点：

① 事業の実施体制について（他団体との連携体制、委員構成等）
② 研修シラバスについて（項目、内容等）
③ 指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）について（プログラム、講師、内容、日程、時間等）
④ 都道府県薬剤師会との連携・協働を踏まえた本事業の全体構想及び今後の展開について（実行性等）

評価結果：
事業評価委員会での主な意見は下記のとおりである。

①事業の実施体制について（他団体との連携体制、委員構成等）
・本事業で企画した研修会の内容に適切な人選が行われており、事前準備から密に連携を図ることができたことは評価できる。

②研修シラバスについて（項目、内容等）
・都道府県薬剤師会で研修会を計画するにあたり、研修シラバスがあることにより、未実施項目が明瞭となり、過不足なく研修を実施することができるようになる。
・「Ⅰ-4 カウンセリングスキル」の記載内容について、一部再検討が必要と考えられる（ロジャーズのカウンセリング理論の記載）。
・「Ⅱ-5 検査値の把握」の記載内容について、一部再検討が必要と考えられる（AIDSのみの記載）。
・「行動目標」の疾患の具体例は、その疾患の代表的な疾患の例示すべきである（「Ⅲ-11 悪性腫瘍」）。また、薬学教育モデル・コアカリキュラムの「８疾患」との整合性を図ることが望ましい。
・都道府県薬剤師会における研修では、第Ⅲ章で取り上げている基本的な疾病について、さらにレベルアップすることが伝わるように記載してもらいたい。
・研修シラバスの研修内容や研修期間等の方略および評価の記載が不十分と考えられる。

③指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）について（プログラム、講師、内容、日程、時間等）
・指導者研修会の内容は非常に充実していた。
・指導者研修会を受講したことにより、都道府県薬剤師会での研修に積極的に関わることができる。
・指導者研修会は、受講者へ研修の趣旨が伝わることが重要である。また、受講者の要件と継続受講についても明確にすべきである。
・指導者研修会の受講者は、原則、40 歳代までとされているが、薬剤師の目指す姿の早期実現が目標であれば、年齢制限を行わず、都道府県薬剤師会の役員が参加するのがよい。

④都道府県薬剤師会との連携・協働を踏まえた本事業の全体構想及び今後の展開について（実行性等）
・研修シラバスの内容についてはよく出来ている。研修方法については、よりわかりやすく明示すべきである。
・研修による学習項目のアウトカムを例示し、研修者の理解を深める必要がある。
・今後、都道府県薬剤師会の受講者の到達レベルを担保する方策について検討すべきである。
・本事業の趣旨について、広く周知させるため都道府県薬剤師会への計画的な説明および研修シラバスの冊子の配布が必要と考える。
・研修シラバスの都道府県薬剤師会での研修会への取り込みと研修内容の標準化が重要である。
・日本病院薬剤師会から都道府県薬剤師会で開催される研修会への講師の派遣は、可能である。

（その他）
・研修シラバスは、都道府県薬剤師会で計画する研修のロードマップとしての活用がよいと考える。
・第Ⅲ章については、薬剤師が主体的に企画を立案し講師となり、薬剤師の視点で取り組む必要がある。
・昨年、本年は厚生労働省補助金事業として実施したが、来年以降、実施法人として採択されなくても日本薬剤師会はあと 2 年程度かけて本事業を実施する計画である。

総評：

本事業が計画的かつ実現性の高い研修制度であることが、事業評価委員会で討議され、確認できました。本事業の実施体制は組織化され、厚生労働省による事業終了後も継続的に引き継がれることは、高く評価されます。

研修シラバスについては、かかりつけ薬剤師および薬局機能を発揮するうえで重要な研修項目を含み、本事業の主体となるものの１つです。研修すべき項目が明確化されており、都道府県薬剤師会での研修内容に直結しており明瞭です。ただし、具体的な研修の方略の記載が一部不十分であり、研修の標準的な評価方法と到達レベルが未設定のため、都道府県薬剤師会での研修では大きなばらつきとなることが予想されます。第Ⅲ章では 12 疾病の代表的な疾患の例示にとどまっているので、都道府県薬剤師会での研修内容を一定のレベルに保つためにも、推奨テキスト・ガイドライン等の研修シラバスへの記載やコンピテンシーとルーブリック評価の導入が必要と考えます。

指導者研修会については、主体的に研修の運営にあたることを目標として、非常に密度の高い研修内容になっており、受講者からの評価も高いものです。ただし、受講者を「原則 40 歳代」に限定する根拠と、実施の実現性を考えると、当面の期間は年齢を問わないことも必要と考えます。積極的に主体的に取り組む意思の強い受講者を優先すべきと考えられます。また、受講者の自己研鑽の積極的な継続性を考え、研修記録の自己管理システムの構築も必要と考えます。

都道府県薬剤師会と本事業との連携・協働については、学術大会でのセミナーおよび日本薬剤師会雑誌やホームページなどを通して、全会員への周知を図る必要があります。

「平成 30 年度　薬剤師生涯教育推進事業　薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」は、地域医療の質を向上させる薬剤師による質の高い研修であることが高く評価され、今後の PDCA サイクルの活用を踏まえた事業の運用に期待できます。

事業評価委員会からは、計画的かつ実現性が高い事業であると評価を受けた。これは、指導者研修会を行った昨年度事業の経験を踏まえて、指導者研修会を単独事業として行うのではなく、「患者のための薬局ビジョン」の実現とそれによる地域医療の質の向上を事業目標に設定し、かかりつけ薬剤師・薬局の機能とそれを発揮するために必要な資質を強化するため事業として実施されたことへの評価であろう。評価された具体的な内容としては、研修シラバスの作成、シラバスと関連づけて指導者研修会を計画したこと、またシラバスと指導者研修会を活用

して都道府県薬剤師会において研修を展開する全体構想が描けたことが挙げられる。
また指導者研修会に関しては、事業実施委員会が事業目的と内容に関して一貫したイメージを共有できたことにより、指導者研修委員会及び各ワーキンググループ委員の人選を的確に行い、様々な関係者、有識者の参画を得て研修内容を検討することができた。このことにより委員間にも目的が共有でき、その上で講師を選定・依頼できたことが成果に繋がったと考えられる。またワークショップ講師にはワーキンググループに参画いただき、事業目的、研修のねらいを踏まえた上でワークショップ内容を組み立てていただいたことも、よりよい成果に繋がったと言える。
　また、評価委員会から指摘のあった点について考え方を以下に述べる。

○方略の記載について：
　この研修シラバスは、各都道府県薬剤師会が各々に計画・実施されている研修事業に組み入れる形で、研修内容の指標として活用されることを想定していることから、研修時間や方略等の具体的明示を行っていない。時間や方法については運営主体に委ね、実現可能な方法で薬剤師への研修機会を充実していただきたいと考えている。

○評価の導入について：
　評価を行うことがなじまないと考えられ、今後は研修を行う側の自己評価や、受講者アンケート等を活用する等により、より質の高い研修が実施できる仕組みを検討していきたい。

○研修記録の自己管理システムについて：
　本会では生涯学習支援システム「JPALS※」を運営しており、会員であれば無料、非会員でも有料で利用できる。より一層 JPALS の活用を促していきたい。
　※　JPALS（ジェイパルス）：
　　インターネット上で利用できる生涯学習支援システム。学習の記録である実践記録（ポートフォリオ）の蓄積と、段階制の仕組みであるクリニカルラダー（以下 CL）の　活用を以て、薬剤師の資質向上に寄与し、国民の保健・医療・福祉に貢献することを目的としている。CL レベル 5 以上になると「JPALS 認定薬剤師」として認定。

○指導者研修会受講者の年齢制限について：
　将来の地域医療を担う人材の育成も目的としていることから、受講者を 40 歳代までとしており、この方針を優先したい。なお都道府県薬剤師会における事業の実施につなげるために、都道府県薬剤師会の役員を対象とした本事業の説明会を計画している。

Ⅵ　今後の事業展開について（都道府県薬剤師会等における研修機会の充実）

本会は、厚生労働省（医薬・生活衛生局総務課）の「薬剤師生涯教育推進事業」の実施法人として、厚生労働省の実施要綱に則り、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目的として「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を計画・実施した。

本事業は、本会において本年度、①薬剤師のかかりつけ機能の強化のための研修シラバスを作成し、その内容に基づいた、②将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成のための指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）を開催した。これらの事業成果を次年度以降、各都道府県薬剤師会の研修計画に反映し薬剤師への研修を充実していくことまでを含めた構想としている。

都道府県薬剤師会における研修は、指導者研修会の伝達講習を意図するものではなく、シラバスを活用して地域のリソース（人材等）を活用し、地域医療の実践に繋がる研修を数年間かけて企画・実施することを趣旨としている。そのため指導者研修会は、地域における研修会の企画実行を担う指導的立場の者としての資質向上や研修方略の習得等を図るとともに、地域における研修において到達目標とする知識・技能レベルの共有等を目的として開催した。

地域における研修会は画一的なものを求めてはおらず、各都道府県薬剤師会が各々に計画・実施している研修事業に組み入れる形で、研修内容の指標としてシラバスが活用されることを想定している。研修時間や方法については運営主体に委ね、実現可能な方法で薬剤師への研修機会を充実していただきたいと考える。

この研修が、地域の実情に応じた、地域医療の質の向上に繋がる実践的な研修として全国で展開されるよう、都道府県薬剤師会と本事業の趣旨を共有し、今後も継続的に連携・協働していきたい。具体的には来年度、都道府県薬剤師会の役員を対象とした本事業の説明会を計画している。

本会では来年以降も、指導者研修会を継続的に実施していく予定である。指導者研修会を受講する次世代の指導的立場を担う若い世代と、現在の都道府県薬剤師会の事業運営を担う役員が一体となって、2025 年に向け複数年をかけ、シラバス及び指導者研修会の成果を活用して地域に応じた研修を実施いただけるよう、また研修を通じて地域医療の質の向上が図られるよう、本会として取り組みを継続していきたい。